

令和 4 年度

事業所名： グループホーム みどりの里 西ユニット

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100060		
法人名	株式会社 藤森		
事業所名	グループホーム みどりの里 西ユニット		
所在地	〒028-7911 岩手県九戸郡洋野町種子第40地割22番地2		
自己評価作成日	令和4年8月13日	評価結果市町村受理日	令和4年10月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月に一度、書面にて利用者の近況をお知らせしている。生活面、健康面、施設からのお知らせの項目の他に生活の様子がわかる写真を添えてある。遠方にお住まいのご家族から「元気そうで安心しました」と感想を頂いている。要望があれば電話での会話やテレビ電話でお顔を見ながらの会話などにも対応している。
当施設では「事故対策委員会」「身体拘束防止委員会」「栄養食事委員会」「広報レク委員会」「環境・衛生委員会」が組織され、全職員が何れかの委員会に所属している。「広報レク委員会」が中心となって季節の壁飾りを利用者と協力しながら作成し飾りつけを行っている。単調になりがちな施設の生活に季節感を取り入れ、利用者の心を和ませている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆったり、のんびり、自分らしく、安心できる生活」とする職員が定めた理念を共有し、日々の生活の中で利用者に寄り添い、話を聞きながら、入居前の利用者ごとの生活スタイルを大切に、残された能力を活かし意向に沿ったきめ細かな介護サービスを提供している。商店主や元消防士、保育士経験者を運営推進会議の委員とし、助言や提案のほか、業務への支援も得ている。また、家族へ毎月、利用者の生活状況を「おたより」として作成し、写真を添えてお知らせするとともに、面会時には要望等を伺い対応している。さらに、職員からの提案や職員で構成する委員会の提案を受け、設備の拡充や行事の実施、業務の改善等につなげ、より充実したサービスの提供に取り組んでいる。加えて、職員アンケートを実施し、勤務条件の変更や資格取得の支援を行い、職員のスキルアップによる介護サービスの質の向上を図り、利用者の安心と家族の信頼を得ている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年9月2日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○ 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、玄関、職員休憩室に理念を掲示し、職員が常に確認・意識出来るようにしている。利用者のケアに迷った時は、理念に立ち返り問題解決につなげている。	グループホームの理念を職員会議等を通じて共有し、入居前の利用者ごとの生活様式を大切に、その人らしい暮らしを送るため、食事や入浴など、利用者の意向に沿ったきめ細かな介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	小学校や地域の行事へ参加や、夕涼み会の時に施設を開放し近隣の方との交流の場としていた。感染症対策で現在は外部との交流は行っていない。	コロナ禍により、施設内へのボランティアなどの受け入れは中止しているが、近隣小学校の運動会、学習発表会などに職員を派遣し、今までの繋がりを大切にしている。町内会に加入し、広報等から情報を得ているほか、町主催の段ボール回収にも協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の社会科見学、中学生の職業体験を受け入れ、認知症への理解を深めてもらう場としていた。現在は、感染症対策で受け入れを中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月で定期開催し、施設状況の報告や意見交換、近隣施設での動向などの情報交換、アドバイスを受ける機会となっていた。感染症対策のため、現在は書面だけのやり取りとなっている。	専門的な知識を有する委員による助言や提案、消防計画策定時のアドバイスなど、業務への支援を受けて、空気清浄機の設置や避難訓練計画の作成など、業務の改善につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域支援センターの職員に毎回運営推進会議に出席頂いたり、町主催の会議や研修会にも出席し情報交換を行っていたが、感染症対策で現在は電話でのやり取りとなっている。	市の職員による運営推進会議でのコロナ禍に対する助言、指導のほか、要介護認定申請事務の指導、メールによる各種情報の提供などをいただいている。町設置の無線端末を通じ災害情報なども提供されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会が主体となって身体拘束廃止のマニュアルを整備し、全職員に配布している。委員会の勉強会や定例会議で個々のケアが身体拘束に抵触していないかどうかを検証している。	職員による委員会を設置し、身体拘束に関する現状や課題などを話し合い、対策等を職員に周知している。また、輪番で職員作成の資料による研修会を開催し、趣旨の徹底を図っている。身体拘束の事例はなく、玄関の夜間の施錠のほか、居室では離床センサーを使用している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の為、内部・外部研修にて勉強会を行っている。グレーゾーンについても具体的な事例をあげ日々のケアに問題がないか話し合う機会を設けていたが、現在は書面での勉強会となっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を2名利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章と口頭にて説明を行い、専門用語を使わずに分かりやすい言葉で丁寧な説明を心掛けている。改定等の際は文章で連絡し、さらに電話で不明な点・疑問点がないかを確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、利用者の近況を写真を添えてお知らせし、ご意見は会計で来所の際に伺うことが多い。ご家族と面談の時間を設けてご意見や希望を伺っている。	受診時や面会時に家族の意向を聴き取るほか、毎月、利用者ごとに手書きのお知らせや写真を送り、利用者の生活状況を知らせ、要望等を伺い対応している。遠方の家族とのテレビ電話による面会を導入し、近傍に住む家族からは施設の周辺の草取りなどの協力も得ている。	行事内容や生活状況などをまとめた資料を事業所として作成、提供し、より一層家族の理解の増進に努めながら、その意向の把握を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議やカンファレンス、ミーティングノート等で意見・提案を意見・提案を出しやすい機会を設けている。各ユニットに、介護リーダー、副リーダーを配置し職員が話しやすい環境を整えている。	職員会議や連絡(申し送り)ノートの記載、職員のアンケートなどを基に、設備の補充、行事の実施、業務の改善のほか、勤務条件の変更、資格取得の支援等を行っている。いつでも話しやすい環境のもと、良好なコミュニケーションの確保に努めながら、円滑な運営に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き方アンケートを定期的実施し、職員の希望する勤務条件に出来る限り応えている。子育てしている若い職員が働きやすい様に柔軟に対応している。資格手当・夜勤手当・休日出勤手当・昇給・賞与の支給に努め、介護職員処遇改善加算、特定処遇改善加算を特別手当として支給している。		

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に合わせた外部研修への参加や、法人内研修の開催で外部からの講師を招き学ぶ機会を設けている。最近では歯科衛生士の資格を持つグループ内の職員が講師となり、口腔ケアの重要性と具体的な方法について学びを深めた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症高齢者グループホーム協会に加入し、外部研修や地域会議で同業者との交流がある。現場での困難な事例についても参考意見をもらう等、サービスの向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、計画作成担当者が利用者ご本人、ご家族から心配事、要望等を話しやすい雰囲気作りを心がけている。面談や、対話を積み重ねながら信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と面談し、不安な事や要望を伺っている。ご家族が望まれるご本人の生活と今までの背景を詳しく伺うようにしている。入居後は出来るだけ多くの機会に利用者の生活状況を伝え、何かあればその都度電話にて相談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者がアセスメントを実施し、ご本人が出来る事、出来なくなっている事を見極め、ご本人に必要なと思われる支援を居宅支援事業所、地域包括支援センターの担当者とも連携しながら検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、地域の行事、伝統料理、生活の知恵などを教えて頂くことも多い。現在出来ている事を継続出来るように、利用者の能力に応じた手伝いや役割を担って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要な時には電話で相談したり、会計で来所されたときにご自宅で生活していた時の様子を教えて頂いている。		

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症対策で日々の外出を控えている為、馴染みの店や床屋に通うことは難しくなっている。町内の老人会主催の演芸会や地域のお祭りのDVDを鑑賞し、参加者の中に知人を見つけたり馴染みの場所の映像を見て話が弾んでいる。	コロナ禍により、知人や友人の来所が制限されるなか、デイサービスの利用者のみならず、通院時に会った知人ともこれまでの関係を大切にできるように支援している。おやつに「まめすつとぎ」などの郷土菓子を提供し、昔の生活に思いを馳せるひと時を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの座席を性格や相性で調整したり、孤立しがちな利用者には職員が間に入り他の利用者に関わりが持てるようにお手伝いをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移ったり入院などで退所した時には、担当ケアマネージャーや医療関係者にホームでの生活状況や介護状況を提供している。また、ご家族やご本人からの相談は随時受け対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人から伺ったり、それが困難な方には生活状況を観察し情報を職員全員が共有し、提供したサービスを定期的に検討している。日々の生活の中で職員と一対一で向き合える時間をつくり、ご本人の思いをくみ取れるように心掛けている。	利用者一人一人の個性と以前の生活を大切に、その人にあった介護サービスを提供している。洗濯たみなどのお手伝いや塗り絵などの趣味、レクリエーションのほか、お世話好きな利用者には、その意向を活かして対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期段階でご本人・ご家族からお話を伺ったり、担当ケアマネージャーから情報提供してもらっている。入居後は、コミュニケーションの中でご本人の言葉、仕草、表情から推測しケアにいかしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝と夕の申し送りで、利用者の体調面、食事量、排便の有無などを確認し、職員と過ごす中で個々の有する力の把握に努めている。計算問題を解くことが得意な方、達筆な方、洗濯物を丁寧にたたむ事が出来るなど得意とする事を職員が把握し日中の活動に活かしている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族の意向を確認し、計画作成担当者と居室担当者が介護計画の原案を作成している。毎月のカンファレンスで必要に応じてモニタリングを行いプランの見直しを行っている。	介護計画の見直しにあたって、ケアマネは利用者との面談や、アセスメントを行った居室担当からの聞き取りをもとに素案を作成している。家族への説明、了承を経て成案とし、職員による毎月のカンファレンス、看護師の助言なども計画に反映させている。見直し等の内容は、全職員に共有されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の生活の様子は個別に記録されている。日勤者から夜勤者へ、夜勤者から日勤者へと情報は共有され気づきや変化についても記録を残している。問題が生じたときに記録を遡り解決の糸口になる事もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	車椅子の利用者の通院の際に、ご家族の車では対応が難しい為、病院までの送迎を施設で行いご家族と待ち合わせするなど行っている。会話が難しい利用者の様子をテレビ電話を使ってお伝えするなど、利用者のご家族が必要としていることに、出来る限り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や地域ケア会議で情報を頂き、地域のイベントや小学校の行事に参加していたが、感染症対策の為、参加は見送っている。町の発行する広報誌を定期で届けてもらっており、毎月の楽しみの一つになっている。字を読むことが難しい利用者も写真を見て楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する病院へ通院している。多くの利用者は、地元の国保種市病院をかかりつけとしている。職員が受診に立ち合い、受診結果をファイルに記入し職員全員で健康面の情報を共有している。	かかりつけ医を協力医としている利用者は15名、従来のかかりつけ医には残る3名が受診している。家族同伴は3名で、他は精神科、耳鼻科などを含め、家族の要請により職員が同行している。歯科は訪問診療を受診している。受診時には医師にバイタルチェックや生活情報を提供し、受診後は家族から聴き取るなどして、個別に記録をファイルしている。コロナワクチンの接種は、町の指定医が実施した。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	敷地内のデイサービスの看護職員に相談しアドバイスを受けられる体制が整っている。緊急時には協力医療機関へとつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ禍以前は、入院時にはなるべく病院を訪ね、医師、看護師に治療状況を伺うなどして情報収集を行っていた。現在は感染症対策の為、病院、家族とは電話のみでの情報のやり取りになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、看護師が配置されていない為、痰吸引などの医療行為は行えないことを丁寧に説明し了解を得ている。重症化が見られた場合には、かかりつけ医や町内の他施設と相談し、より良い支援を検討している。	入居時に施設内での看取りは実施していない旨を説明し、了承を得ている。重度化した場合には、医師の指示の下で家族の意向を確認し、病院や特養などの施設に移送している。隣接するデイサービスの看護師の指導の下で、終末期のターミナルケアに対応している。緊急対応は、医師の指示を得て近隣の総合病院に搬送している。AEDは施設内に設置している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の緊急時対応マニュアルがあり、緊急時にはマニュアルにそって対応する。施設にAEDを設置し緊急時の備えている。AEDの使い方についても定期的に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時マニュアルがあり、職員は年2回(日中と夜間を想定)の避難訓練を消防署の指導を頂き実施している。運営推進会議委員による避難者の見守り支援の協力も受けている。ハザードマップを活用し、避難経路、避難場所の確認も行っている。	総合訓練と夜間想定訓練を実施した。ハザードマップで災害予想地域、避難場所を確認している。施設の関係で避難場所を文化会館としている。米や発電機、卓上コンロ、反射式ストーブなどを備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士の会話や申し送りの際には、利用者の耳に入らないように配慮している。入浴や排泄介助などの際には誇りや自尊心を損ねる事がないように利用者の心に届くような言葉掛けや対応を心がけている。	個人情報、文書で作成・ファイルし、事務室で管理している。居室入室時のノックの励行はもとより、入浴・排泄など異性介助への要望等にも対応している。介護にあたっては、以前の暮らし向きへ配慮しているほか、方言での話しかけなど、親しい関係にあっても利用者の心情を大切に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の気持ちを話しやすい状況や場所などに配慮している。普段は言葉が少ない利用者が居室で職員と一対一になると楽しく冗談も言ったりしているので、個々に向き合える時間を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や入浴時間などの基本的な生活時間は概ね決まっているが、その時の利用者の体調やペースを大切に柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服選びをお手伝いしたり、希望者には職員が散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備や調理を行うことは難しくなっているが、カウンターを挟んで台所とホールに分かれている為、調理の音や匂いで食事の時間が近づいていると感じることが出来る。旬の野菜や果物、海産物を取り入れたメニューを利用者・職員が同じテーブルでとる事で会話が盛り上がっている。	食材を地元のスーパーで毎日、旬のものを確保し、職員が調理し提供している。行事でのちらし寿司や年越しのそば、煮しめなど季節を感じるものを提供している。うどんに人気があり、郷土食のあずきはつなどの希望にも対応している。手作りのおやつ、家族からの果物、菜園の野菜なども活用している。利用者もテーブル拭き程度であるが、お手伝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の行動表で食事量や水分量を把握している。咀嚼力、嚥下力、その日の健康状態に合わせた食事形態で提供している。食事が十分に摂れない方には補食等で対応している。箸、スプーンを使うことが難しい方には一口大のおにぎりにして手で掴んで食べる事が出来るように提供している。		

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者に口腔ケアを勧めている。一人では歯磨きが十分に行えていない利用者には、仕上げ磨きを行っている。必要に応じて歯科往診を依頼し、義歯の調整や修理を受け、口腔内環境を整えている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日の排泄パターンや回数を把握し、その方にあつたタイミングで声がけしトイレに案内している。必要に応じて見守りや介助を行っている。失敗の少ない方は、リハビリパンツから布パンツにパット使用に変更する等、個々の状態に合わせた支援を行っている。	利用者ごとの排泄パターンを把握し、仕草などを見て、案内、誘導している。失敗した場合には、他の利用者に知られないようそれとなく誘い、居室等に対応している。夜間のポータブルトイレの利用は3名、1名の自立者は昼に布パンツ、夜はリハビリパンツを使用している。オムツ使用は4名で、自尊心を大切にしながら見守りを主にして自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給や乳製品、食物繊維の多い食品の献立づくりを心掛けている。毎日の軽体操や余暇時間で無理のない範囲で体を動かして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	週2回の入浴を基本として、職員が声掛けや入浴介助を行っている。その日の体調や病院受診などに合わせた日程調整が行える体制を整えている。「入浴」と聞いただけでは理解できない利用者には、面白可笑しくジャスチャーも交えてお誘いしている。	大型の浴槽に3名入浴し、職員2名で対応している。午前中の中の入浴で週2回を基本としているが、希望者には3回の対応も行っており、入浴剤や菖蒲湯も提供している。世間話や昔話のほかDVDで音楽を流し、歌を唄い楽しむなど、職員と利用者のコミュニケーションの場ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的なりネン交換やベッドメイキングで、気持ち良く休む事が出来る環境を整えている。夜間、寝付けない方には水分補給を勧めたり、ホールでお話を伺う等個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット別に服薬一覧表を作成し、内容を確認しながら準備している。配薬から服薬まで5段階の確認者がおり、薬の目的、副作用、留意点など、医師・薬剤師からの指示などが共有されている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやカーテンの開け閉め、テーブル拭きなど、それぞれが得意な事、出来る事を行って頂いている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者には、町内の理容店への外出支援を行っていた。感染症対策の為、現在は職員が散髪を担当している。病院受診以外での外出は難しくなっているが、施設の園庭で外気浴を行ったり、季節の花や野菜の成長を楽しんだりしている。	コロナ禍のため、ドライブ等での外出は制限している。天気の良い日には周辺の散歩や、椅子を中庭に持ち出し日向ぼっこをしている。秋には、近くでの栗拾いが利用者の楽しみになる。家族と一緒に、パジャマを買って来たり、医療機関受診の帰路に外食してくる利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で財布や現金をお持ちの方は、現在はない。事務所で小遣いをお預かりし、希望の物や必要品をその都度購入出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	感染症対策での面会制限中の為、電話で声を聞きたいという要望が増えた。希望するご家族には、テレビ電話にも対応している。手紙のやり取りは難しいが、ご家族からの絵葉書を大切に居室に飾っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除の行き届いた清潔な空間を心掛けている。除菌電解水供給装置を導入し、消毒、消臭に努めている。レクリエーション委員会が率先し、壁に季節を感じられる飾り付けを行っている。	クリーム色の壁と茶色のドアのツートンカラーで、天窓や大型の窓から光が入り明るく、食堂やロビー、廊下は広く開放的である。壁は、手作りの作品や季節の飾り、文化祭作品、写真などで飾られている。季節の花も生けられている。利用者は、テーブル、ソファなどで趣味に興じたり、テレビを鑑賞して寛いでいる。特定の利用者用のテレビもある。配置のピアノは現在使用していない。温度は、床暖、エアコンで管理され、空気清浄機が整備され、快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置の仕方で、テレビを集中してみたい方、お話しが好きな方同士、静かに過ごしたい方とそれぞれが快適に過ごす事が出来るように工夫している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム みどりの里 西ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入居の際には、馴染みのものやご家族の写 真を持って来てもらうように声をかけてい る。各居室の担当職員が定期的に整理整頓 を行い、清潔で居心地の良い空間を提供出 来るように努めている。	温度は、床暖と廊下のエアコンで管理され ている。ドアには暖簾が下げられているが、 中にはドアを閉じている利用者もいる。ベ ッド、衣装ダンス、ナースコール、テレビ 端子が設置され、テレビ、冷蔵庫、家族写 真、ぬいぐるみなど、利用者の意向に沿っ たものが持ち込まれ、居心地の良い居室と なっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	利用者が迷わないように、トイレや浴室など に大きな文字で案内板を掲示している。廊下 から居室へは手すりが設置され安全に移動が できる環境が整えられている。居室内のベッ ドやタンスの配置にも利用者個別の身体の状態 や寝る姿勢を考慮している。		